

「2024年3月期第2四半期 決算説明会」主な質疑応答（要旨）

Q1 通期の営業利益予想を修正した背景を教えてください。

- 上期については、消費行動のリアル回帰や物価上昇の影響等を背景として、営業収益は前回予想を64億円下回ったものの、オペレーティングコストの適正化に注力したことなどにより、営業利益は概ね前回予想通りの水準となりました。
- 下期については、EC需要の伸び悩みなどにより、引き続き、取扱数量の弱含む状況が想定されることから、大口法人のお客様を中心に取引拡大に向けた取組みを強化していくものの、通期の営業収益については前回予想から350億円の減額修正といたしました。
- かかる中、事業構造改革を推進しつつ、オペレーティングコストの適正化など、営業費用の抑制に注力していくものの、通期の営業利益については前回予想から150億円の減額修正といたしました。

Q2 今後の市場環境をどのように捉えているか、また、宅配便取扱数量・単価の今回予想について、考え方を教えてください。

- 上期については、消費行動のリアル回帰や物価上昇の影響等を背景として、EC需要が想定以上に停滞しました。
- 下期については、市場環境は緩やかな改善傾向に入るものの、全体的には厳しい状況が継続すると見えています。
- 宅配便取扱数量が想定を下回る中、宅急便ネットワークのキャパシティを最大限活用するため、大口法人のお客様を中心に取引拡大に向けた取組みを強化しており、下期からは一定の成果が出てくることを想定しています。
- 既存の法人のお客様に対するプライシングの適正化は、概ね想定通り進捗しており、下期以降も継続して取り組んでいくものの、新規の大口法人のお客様の取扱数量増加を踏まえ、平均単価の予想を修正しました。

Q3 物流業界の「2024年問題」への対応を含め、今後の営業費用の見通しについて教えてください。

- お客様の動向等を踏まえた業務量の予測に基づく、適切なオペレーションに注力するとともに、営業所の集約・大型化、ターミナル機能の見直し、システム化を通じた働き方や体制の刷新など、宅急便ネットワークの強靱化に向けた取組みを推進することで、安全・品質や社員・パートナーの働きやすさ・働きがいの維持・向上を図るとともに、オペレーティングコストの適正化に努めています。
- 2024年4月から、自動車運転業務における「時間外労働の上限規制」の適用が開始されますが、働き方改革を進めてきた弊社グループにおいては、社員の労働時間は既に適正な水準となっています。
- かかる中、現在、ターミナル機能の見直しと並行して、今後の幹線輸送の在り方などについて、担当いただいているパートナー企業と協議を進めています。パートナー企業に対しては、燃料費や賃金単価など外部コストの上昇を踏まえた適正な対応を継続するとともに、輸送効率を高める取組みを進めることで、オペレーションコストの適正化に努めていきます。

Q4 届出運賃を年度ごとに更新していく方針を掲げていますが、改めて考え方を教えてください。

- 本年2月にお示ししたとおり、物流業界の「2024年問題」をはじめ、外部環境変化に伴う影響を、適時適切に運賃等に反映させるため、年度ごとに届出運賃等を見直すこととしております。
- 引き続き、プライシングの適正化に向けた取組みを進めるとともに、社員、物流パートナーの労働環境の改善につなげながら、輸配送ネットワークの維持・強化とお客様により良いサービスを提供し続ける環境構築に努めていきます。

以 上